

※サンプルを参照して以下に記入いただき、完成後にメールの添付ファイルで学科等の FD 委員に送信してください。

報告者氏名 山下 祐一郎

FD 名称 授業支援システム活用勉強会

主 催 JAST 株式会社

開催日時 平成 28 年 9 月 7 日

開催場所 大阪（JAST 大阪本社）

講 師 京都光華女子大学 阿部一晴 先生

FD 内容 今回のセミナーは 3 部構成であった。

■第 1 部は阿部先生より EduTrack やユニバーサルパスポートのクラスプロファイル機能を使った実践について報告があった。実践事例は、主に以下の 4 点が紹介されていた。

1. 授業の後、可能な限りその日のうちに 15 分程度のまとめの動画を作成する。これは GET Recorder を使って作成しているとのことであった。
2. 阿部先生が行った e ラーニングでは、ビデオ講義、小テスト、レポート提出などで構成している。ただし、動画の配信は Fuji Xerox 社の MediaDEPO を使用した。
3. 紙による小テスト。重要語句を虫食いにするなど。
4. クリッカーを使った実践。簡単に学生の反応を得ることができるし、質問をするということを学生に伝えていれば授業に緊張感を持たせることができる。ただし、発問には工夫や慣れが必要。

※いろいろな実践を行っているが、学生との繋がりを増やすということ。その手段としての LMS なので、アナログ的なコメントを手書きしたり、小テストの採点をしあげたりでも良い。

■第 2 部は、参加者（約 15 名）によるディスカッションであった。テーマは複数用意されていたが、「e ラーニングの利用率を上げるための工夫について」というテーマにほとんどの時間が割かれた。このディスカッションの中で、仏教大学さんの「学生が e ラーニングを望むように仕向ける。そうすれば教員は使用せざる得なくなる」という意見が面白かった。加えて、「ポートフォリオと LMS（とシラバスシステム）を連動させるように交渉中である」という点には多くの人が関心を示していた。

■第 3 部は、立食形式での意見交換会であった。参加者の多くは職員さんであったが、様々な意見を聞くことができた。

報告書コメント  
(感想含む)

■山下の感想

阿部先生の「学生との繋がりを増やす」ということは確かにそのとおりだと思う。忙しい中で手を抜きがちだが、できるだけやっていく必要がある。また、参加者の多くが職員さんであり、システム導入などに関する話は一般に職員さんマターなのだと感じた。参加者全体の共通意見として、一般的には、職員さんが教育に関する知識（教具や教室、情報システムなど）を持つのが望ましいとされているようであった。そのほうが、スムーズに学生の環境整備が整うとのこと。

今回の参加校の中で EduTrack を導入済みの大学は本学のみであった。そのため、実践事例や不具合などに関する意見交換ができなかった。その点は心残りであった。可能であれば3回全部出席したかった。

報告日：平成 28 年 9 月 8 日